

道

2021年11月1日
(第75号)

小田川河川敷(箭田橋より東を臨む)



一九八六年、三四歳の僕は当時の〈道〉通信で、倉本聰(脚本家)について次のように書いている。――なによりも彼の人間を見る目のあたたかさに惹かれる。(・)倉本さんの作品には、不器用な人、ドジな人(・)が登場する。人のハマを笑いの種にして喜ぶ人、カッコつける人、いばる人(・)。気が弱い人、頑固な人、軽薄そうな人……。それでいて彼等は必死に(・)精一杯生きようとしている。(・)、カッコつけてもどこかで裏が見えていたり、不器用だけど情熱家であったり(・)。その人なりに生きることにはぶつかり、くじけ、弱さをさらけ出しながら、それでもまたぶつかっていく。それらすべてが魅力的なのだ。(・)弱い人間が、ロマンとか夢とか求めて、じたばたしている姿をテレビの画面に見ながら、自分をその人にダブらせている。――▼僕は倉本さんの脚本によって、心の底に溜まった「劣等感」を少しずつ別の視点から見る事ができるようになったし、自分の「弱さ」を開き直る術を徐々に身につけていったように思う。▼今は七〇歳になった僕の折り返し点ともいえるあの頃、僕は、時の「倫理」から外れた世界にどっぷり浸っていた。そして、欺き通すことができないうことを感じていた。自分中心に生きてきた。▼「弱さ」は開き直ると言うより、そのものに深い意味があるということを知るのは何時だろう。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也



遠田 椋の木